

# 東京2020大会を支えたボランティアに関する 研究 その1 —大会ボランティアの成果と満足度に着目して—

二宮雅也  
(文教大学)

## 1 はじめに

まさに新型コロナウイルスが猛威を振るい、緊急事態宣言が発令される中で開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」と略す）。大会開催の是非を巡って世界中でさまざまな意見が飛び交う中、当初の予定から1年後の2021年7月23日にオリンピックは開幕した。大会がはじまると、日本人選手のメダル獲得の明るいニュースと、増え続けるデルタ株感染者の暗いニュースが並行的に伝えられたが、そこに至るまでには大会を支えるボランティアにも批判的な言葉が浴びせられるなど、まさに波乱の中での開幕であったといえよう（注1）。

大会開幕まで15日に迫った7月8日には、東京、神奈川、埼玉、千葉の1都3県のすべての競技会場で観客を入れずに開催することが決定した。このような無観客開催（宮城、茨城、静岡3県の計5会場では、一部有観客）は、前代未聞の開催形態であった。こうしたコロナ禍での大会開催、また無観客開催は、大会を直接支えるボランティア活動にも大きな影響（変化）をもたらした。特に、直前で決定された無観客開催により、それまで想定されていた活動内容は変更を余儀なくされ、当日は予定されていた活動内容とは異なる役割に就くボランティアもいた（注2）。また、活動開始前のボランティアを対象としたワクチン接種や、活動当日のPCR検査の導入など、それまでに予定されていなかった対策も講じられることになったが、特に競技会場におけるPCR検査の導入は、ボランティアがその一部運営を担うことになったため、予定にない活動が追加される状況になった。

こうして、それまでに絵に描いてこなかった活動内容も加わり、かつ、直前の役割変更も伴うボランティア活動とはなったが、多くのボランティアの積極的な関与により、大会は予定の日程を消化し、8月8日にオリンピックは閉幕を迎えた。しかし、新型コロナウイルスの蔓延はオリンピック終了後も続き、直後の8月24日に閉幕を控えたパラリンピッ

クにも暗雲が立ち込めた。なぜなら、パラリンピックに出場する選手の中には基礎疾患を有し、新型コロナウイルスにより重症化するリスクの高い選手も出場することから、より一層の感染対策が必要とされたからである。特に、パラリンピックを支えるボランティアの活動内容には、選手村や競技を直接サポートすることも含まれていたため、ボランティアに対してはPCR検査実施の徹底を含めたさらなる感染対策が求められた。

パラリンピックも連日のように伝えられる日本人選手の活躍や、ボッチャやゴールボールといったパラリンピック特有の競技、車いすラグビーや車いすバスケットボールなど、激しいコンタクトを有する競技種目に特に注目が集まり、多くの国民がテレビ等でパラスポーツを楽しむ姿があった。このように、コロナ禍ではあったが東京2020大会は予定された開催期間を全て終了し、コロナ対策を含めたさまざまな観点から世界中で注目される大会となった。

東京2020大会を支えるボランティアには大きく「大会ボランティア」と「都市ボランティア」の2つがある。大会ボランティアは、主に競技会場にて大会運営に従事（競技運営、観客・メディアサポートなど）を行い、大会組織委員会がこれを統括する。一方の都市ボランティアは、国内外からの観光客へ観光案内や交通案内を行い、開催自治体がこれを統括する。ちなみに、この2つのボランティア以外にも、ホストタウンを支えるボランティアや事前キャンプ、聖火リレーを支えるボランティアもいる。

その中でも本稿では、大会ボランティアに焦点を当て記述する。尚、大会ボランティアには、「Field Cast（フィールドキャスト）」という名称が採用されているが、この名称は実際にはボランティア以外の大会スタッフ全体も含むため、本稿では「大会ボランティア」と表記する。

2018年9月26日から大会ボランティアの募集が開始され、結果、8万人の募集人数に対して20万680人の応募があった。その後、一次選考と面談を経て、募集人数のおよそ8万人が大会ボランティアとして採用された。しかし、コロナの影響と一年の大会延期に伴い、最終的には計7万970人（オリ5万1,672人、パラ2万4,514人。うち両大会で活動したのは5,216人）の大会ボランティアが活動を行なった。

本稿は、大会ボランティアに焦点を当て、大会前後のアンケート調査から得られた結果を基に、その特徴を描き出すことを目的とするものである。言うまでもなく、これだけの大会規模、ボランティア人数、活動日数を要するスポーツイベントは例がなく、これまでの各種スポーツボランティアに関する調査結果との単純比較は非常に難しい。しかし、オリンピック・パラリンピックといった異なる2つのイベントが並行的に開催されるという特殊性から、長期間に及ぶボランティア活動や、それぞれのイベントにおけるボランティア観、満足度の分析は、今後の基礎資料としても重要であると考えられる。

## 2 研究方法

### 2-1 調査概要

本研究では、一般社団法人日本財団ボランティアサポートセンター（以下「ボラサポ」と略す）（注3）が実施した①「東京2020大会『大会ボランティア』オリンピック後調査」、②「東京2020大会『大会ボランティア』パラリンピック後調査」を利用する（注4）。このデータはボラサポのメルマガ会員を対象として行ったwebアンケート調査から収集されたものである。調査期間は、①が2021年8月16日から8月29日、②が2021年9月14日から9月26日である。①②で得られたサンプルを大会種別に整理し、オリンピック大会ボランティア（有効サンプル4,611）、パラリンピック大会ボランティア（有効サンプル数1,510）、オリンピック・パラリンピック両大会ボランティア（有効サンプル数2,854）として分析を行った。

### 2-2 調査項目

調査項目は、基本的属性（性別、年齢、居住地、職業、役割、活動期間、活動日数、活動場所までの所要時間、ワクチン接種状況、PCR検査状況、これまでのボランティア経験）を調査した。

その他の調査項目は、笹川スポーツ財団がラグビーワールドカップ2019の大会ボランティア約13,000人を対象に実施した、「ラグビーワールドカップ2019大会ボランティアに関する調査」を参考に、ボランティア活動への満足度、今後のボランティア活動への意欲、ボランティア活動を通じて得たことや感じたこと、ボランティアプログラムに対する評価、無観客開催への評価、ボランティアの待遇について調査した。

### 2-3 分析方法

本研究は、上記の調査項目の中から、大会ボランティアの参加大会種別（オリンピック・パラリンピック・オリパラ両方）と、活動を通じて得られたものや満足度に絞って、基本的属性別に分析を行ったものである（注5）。なお、全ての統計処理はIBM SPSS Statistics 27を用い、クロス集計および $\chi^2$ 検定を実施した。また、近年開催された大規模スポーツイベントにおけるボランティアとの比較として、公益財団法人笹川スポーツ財団が調査し、刊行した『ラグビーワールドカップ2019大会ボランティアに関する調査報告書』を参照しながら、東京2020大会との傾向を考察した。

## 2-4 倫理的配慮

調査研究の目的を web アンケートの冒頭に記載するとともに、調査データの使用については、全体的なデータとして統計的分析を加えるため、個人が特定されないことを説明した。これらについて理解し、調査への同意が得られた者の回答のみを分析対象としている。

## 3 結果と考察

オリンピック大会ボランティア（以下「オリ大会ボラ」と略す）、パラリンピック大会ボランティア（以下「パラ大会ボラ」と略す）、オリンピック・パラリンピック大会ボランティア（以下「オリパラ大会ボラ」と略す）の3つのボランティア種別（大会種別）ごとに、ボランティアが大会から得られたものや感じたこと、満足度について基本的属性との連関を分析した。

### 3-1 回答者の基本的属性（表1）

性別にみると、オリ大会ボラ（男性42.7%、女性56.8%）、パラ大会ボラ（男性33.8%、女性65.6%）、オリパラ大会ボラ（男性43.1%、女性56.2%）と、それぞれ女性がやや多かった。大会組織委員会によれば、両大会を合わせた大会ボランティアは、男性41.8%、女性58.2%であることから、本調査では母集団を反映した結果が得られたことがわかる（注6）。

次に、年代別にみると、オリ大会ボラ（50代36.1%、60代32.4%、40代16.4%）、パラ大会ボラ（50代37.9%、60代23.4%、40代19.7%）、オリパラ大会ボラ（50代32.8%、60代30.9%、40代16.9%）と、それぞれ最も多いのは50代で、以下60代、40代の順となっており、40代から60代が全体の約8割を占めた。大会組織委員会によれば、両大会を合わせた大会ボランティアは20代24.5%、50代23.7%、40代16.9%とされていることから、本調査の年齢構成とは異なっている（注7）。

活動日数では、「1日～9日」の割合が全ての大会種において多かった。また、パラリンピックにおいては、16日以上が非常に少なくなっている。

これまでの「ボランティア経験」では、「現在は活動していないが、過去活動したことがある」が全ての大会種において多かった。

今後の「ボランティア活動継続希望」では、「ぜひ行いたい」「できれば行いたい」を合わせると、9割以上が活動の継続を希望している。

表1 回答者の基本的属性

項目	区分	オリンピック (n = 4,611)		パラリンピック (n = 1,510)		オリ・パラ両方 (n = 2,854)	
		人数	%	人数	%	人数	%
性別	男性	1,969	42.7	510	33.8	1,230	43.1
	女性	2,621	56.8	990	65.6	1,604	56.2
	その他 (その他・答えたくない)	21	0.4	10	0.7	20	0.7
年齢	10代, 20代	96	2.1	84	5.6	136	4.8
	30代	206	4.5	124	8.2	178	6.2
	40代	757	16.4	297	19.7	481	16.9
	50代	1,666	36.1	573	37.9	935	32.8
	60代	1,494	32.4	353	23.4	883	30.9
	70代以上	392	8.5	79	5.2	241	8.4
活動日数	1日～9日	2,902	62.9	1,199	79.4	1,927	67.5
	10日～15日	1,322	28.7	292	19.3	717	25.1
	16日～20日	253	5.5	17	1.1	151	5.3
	21日以上	134	2.9	2	0.1	59	2.1
ボランティア経験	現在も活動している	1,471	31.9	486	32.2	886	31.0
	現在は活動していないが、過去活動したことがある	1,903	41.3	596	39.5	1,148	40.2
	今まで活動したことがない	1,237	26.8	428	28.3	820	28.7
ボランティア活動継続希望	ぜひ行いたい	2,448	53.1	839	55.6	1,615	56.6
	できれば行いたい	1,875	40.7	604	40.0	1,077	37.7
	あまり行いたくない	72	1.6	18	1.2	26	0.9
	まったく行いたくない	25	0.5	6	0.4	12	0.4
	わからない	191	4.1	43	2.8	124	4.3

### 3-2 大会ボランティア活動から得られたもの

「大会ボランティア活動から得られたもの」の15項目（1. 東京2020大会の成功の一助になることができた, 2. 東京2020大会に関わることができた, 3. 一流の選手に会えた, 4. 東京2020大会の公式ボランティアユニフォームなど, 公式グッズがもたらした, 5. 障害のある人へのサポート方法やコミュニケーションスキルが身についた, 6. 人の役に立っただと感ぜられた, 7. 自分の視野を広げることができた, 8. 自分の日常生活に変化をもたらすことができた, 9. キャリアにつながる経験ができた, 10. 語学力を生かすことができた, 11. 語学力以外のスキルや特技を生かすことができた, 12. 興味のあるスポーツに関わることができた, 13. 人と交流することができた, 14. 新たな友人を作ることができた, 15. やりがいのあることができた) について, 5段階 (あてはまる, ややあてはまる, どちらともいえない, ややあてはまらない, あてはまらない) を3段階 (あてはまる, どちらともいえない, あてはまらない) にリコードし, 大会種別にクロス集計および $\chi^2$ 検定を行った。

(1) 大会種別における特徴

「大会ボランティア活動から得られたもの」の15項目について、5段階から3段階にリコードし、大会種別にクロス集計および $\chi^2$ 検定を行った結果、15項目中14項目において有意な差が認められた(表2)。

特に、「障害のある人へのサポート方法やコミュニケーションスキルが身についた」という項目において、オリ大会ボラよりもパラ大会ボラ、オリパラ両大会ボラの方が「あてはまる」の回答が多かった。これは、無観客開催ではあったものの、大会期間における障害のある選手とのコミュニケーション、障害のあるボランティアと共に活動したこと、あるいは大会前に実施した研修等が影響していることが推測される。

また、参考のために前述した調査、ラグビーワールドカップ2019でボランティアとして参加した者の「得たことや感じたこと」の結果と比較したところ、同設問では「ラグビーワールドカップ2019に関わることができた」「ラグビーワールドカップ2019の信念や価値観に賛同することができた」「一生に一度の経験ができた」「人と交流することができた」という項目において「非常にあてはまる」「あてはまる」という回答が多く、大会への関与と交流という部分においては特に本調査結果との共通性が認められた。

表2 大会ボランティア活動から得られたもの(大会種別)

項目	大会種別	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
東京2020大会の成功の一助になることができた	オリンピック (n=4,611)	78.7	12.9	8.4	64.885	p<0.001	0.060
	パラリンピック (n=1,510)	80.2	12.2	7.6			
	オリパラ両方 (n=2,854)	85.7	9.8	4.5			
東京2020大会に関わることができた	オリンピック (n=4,611)	92.8	3.5	3.6	35.266	p<0.001	0.044
	パラリンピック (n=1,510)	94.0	2.8	3.1			
	オリパラ両方 (n=2,854)	96.1	2.1	1.8			
一流の選手に会えた	オリンピック (n=4,611)	47.1	12.3	40.6	33.555	p<0.001	0.043
	パラリンピック (n=1,510)	49.1	12.6	38.2			
	オリパラ両方 (n=2,854)	51.5	14.5	34.0			
東京2020大会の公式ボランティアユニフォームなど、公式グッズがもらえた	オリンピック (n=4,611)	82.9	11.0	6.1	10.135	p<0.05	0.024
	パラリンピック (n=1,510)	84.0	10.0	6.0			
	オリパラ両方 (n=2,854)	80.7	12.6	6.7			

東京2020大会を支えたボランティアに関する研究 その1  
 —大会ボランティアの成果と満足度に着目して—

項目	大会種別	あてはまる	どちらとも いえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
障害のある人へのサポート方法 やコミュニケーションスキルが 身についた	オリンピック (n = 4,611)	39.8	31.0	29.2	380.491	p < 0.001	0.146
	パラリンピック (n = 1,510)	60.0	24.2	15.8			
	オリパラ両方 (n = 2,854)	59.8	22.6	17.6			
人の役に立ったと感じられた	オリンピック (n = 4,611)	67.0	21.9	11.2	67.537	p < 0.001	0.061
	パラリンピック (n = 1,510)	70.3	19.2	10.5			
	オリパラ両方 (n = 2,854)	75.8	16.6	7.6			
自分の視野を広げることができた	オリンピック (n = 4,611)	81.6	11.5	6.9	58.870	p < 0.001	0.057
	パラリンピック (n = 1,510)	87.9	7.7	4.3			
	オリパラ両方 (n = 2,854)	87.0	8.5	4.4			
自分の日常生活に変化をもたら すことができた	オリンピック (n = 4,611)	71.7	18.4	9.9	39.975	p < 0.001	0.047
	パラリンピック (n = 1,510)	76.2	15.1	8.7			
	オリパラ両方 (n = 2,854)	78.0	14.6	7.4			
キャリアにつながる経験ができた	オリンピック (n = 4,611)	41.3	33.0	25.6	2.908	0.573	0.013
	パラリンピック (n = 1,510)	42.1	30.9	27.1			
	オリパラ両方 (n = 2,854)	41.2	33.0	25.9			
語学力を生かすことができた	オリンピック (n = 4,611)	35.8	26.3	37.9	49.669	p < 0.001	0.053
	パラリンピック (n = 1,510)	32.6	23.2	44.2			
	オリパラ両方 (n = 2,854)	41.0	23.5	35.5			
語学力以外のスキルや特技を生 かすことができた	オリンピック (n = 4,611)	34.3	31.9	33.8	51.643	p < 0.001	0.054
	パラリンピック (n = 1,510)	31.5	29.7	38.7			
	オリパラ両方 (n = 2,854)	40.2	29.5	30.2			
興味のあるスポーツに関わるこ とができる	オリンピック (n = 4,611)	39.1	23.4	37.4	13.433	p < 0.01	0.027
	パラリンピック (n = 1,510)	43.8	22.8	33.4			
	オリパラ両方 (n = 2,854)	41.9	22.7	35.4			
人と交流することができた	オリンピック (n = 4,611)	81.4	10.1	8.5	32.638	p < 0.001	0.043
	パラリンピック (n = 1,510)	84.2	8.7	7.1			
	オリパラ両方 (n = 2,854)	86.4	7.6	6.1			

項目	大会種別	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
新たな友人を作ることができた	オリンピック (n = 4,611)	56.4	21.9	21.6	85.355	p < 0.001	0.069
	パラリンピック (n = 1,510)	55.9	22.6	21.5			
	オリパラ両方 (n = 2,854)	66.5	17.6	15.9			
やりがいのあることができた	オリンピック (n = 4,611)	66.5	18.7	14.8	82.081	p < 0.001	0.068
	パラリンピック (n = 1,510)	70.9	15.8	13.3			
	オリパラ両方 (n = 2,854)	75.9	14.9	9.2			

## (2) 性別・年代における特徴

### ・オリ大会ボラ

性別にクロス集計および $\chi^2$ 検定を行った結果、15項目中10項目において有意な差が認められた。オリ大会ボラでは「一流の選手に会えた」「自分の日常生活に変化をもたらすことができた」「人と交流することができた」「新たな友人を作ることができた」という4つの項目について、特に、男性よりも女性の「あてはまる」への回答が多かった(表3)。

次に、年代別にクロス集計および $\chi^2$ 検定を行った結果、全ての項目において有意な差が認められた。「一流の選手に会えた」「自分の日常生活に変化をもたらすことができた」「キャリアにつながる経験ができた」「語学力を生かすことができた」「新たな友人を作ることができた」という5つの項目について、特に、低年代ほどあてはまる割合が高い傾向があった(表4)。

表3 オリ大会ボラにおける活動から得られたもの(性別)

項目	性別	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
東京2020大会の成功の一助になることができた	男性 (n = 1,969)	81.3	11.4	7.4	12.709	p < 0.01	0.053
	女性 (n = 2,621)	76.9	13.9	9.2			
東京2020大会に関わることができた	男性 (n = 1,969)	92.2	4.0	3.9	2.559	0.278	0.024
	女性 (n = 2,621)	93.3	3.2	3.5			
一流の選手に会えた	男性 (n = 1,969)	40.8	13.9	45.3	55.216	p < 0.001	0.110
	女性 (n = 2,621)	51.9	11.1	37.0			
東京2020大会の公式ボランティアユニフォームなど、公式グッズがもらえた	男性 (n = 1,969)	80.5	12.7	6.8	15.335	p < 0.001	0.058
	女性 (n = 2,621)	84.9	9.6	5.5			

東京2020大会を支えたボランティアに関する研究 その1  
—大会ボランティアの成果と満足度に着目して—

項目	性別	あてはまる	どちらとも いえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
障害のある人へのサポート方法やコミュニケーションスキルが身についた	男性 (n = 1,969)	37.8	32.6	29.7	6.465	p < 0.05	0.038
	女性 (n = 2,621)	41.3	29.8	28.8			
人の役に立ったと感じられた	男性 (n = 1,969)	69.9	20.2	9.9	12.858	p < 0.01	0.053
	女性 (n = 2,621)	64.9	23.0	12.1			
自分の視野を広げることができた	男性 (n = 1,969)	77.9	13.7	8.4	31.365	p < 0.001	0.083
	女性 (n = 2,621)	84.4	9.9	5.7			
自分の日常生活に変化をもたらすことができた	男性 (n = 1,969)	66.1	21.9	12.0	55.233	p < 0.001	0.110
	女性 (n = 2,621)	76.0	15.7	8.2			
キャリアにつながる経験ができた	男性 (n = 1,969)	42.4	33.5	24.1	3.767	0.152	0.029
	女性 (n = 2,621)	40.7	32.7	26.6			
語学力を生かすことができた	男性 (n = 1,969)	34.7	27.5	37.7	3.052	0.217	0.026
	女性 (n = 2,621)	36.6	25.4	38.1			
語学力以外のスキルや特技を生かすことができた	男性 (n = 1,969)	34.9	32.8	32.4	3.464	0.177	0.027
	女性 (n = 2,621)	33.9	31.2	34.9			
興味のあるスポーツに関わることができた	男性 (n = 1,969)	41.3	23.5	35.1	8.260	p < 0.05	0.042
	女性 (n = 2,621)	37.6	23.5	38.9			
人と交流することができた	男性 (n = 1,969)	76.6	12.5	10.9	54.342	p < 0.001	0.109
	女性 (n = 2,621)	85.1	8.1	6.8			
新たな友人を作ることができた	男性 (n = 1,969)	48.3	25.4	26.3	94.828	p < 0.001	0.144
	女性 (n = 2,621)	62.6	19.3	18.0			
やりがいのあることができた	男性 (n = 1,969)	66.6	19.2	14.2	1.523	0.467	0.018
	女性 (n = 2,621)	66.5	18.2	15.3			

表4 オリ大会ボラにおける活動から得られたもの(年代別)

項目	年代	あてはまる	どちらとも いえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
東京2020大会の成功の一助 になることができた	10, 20代 (n = 96)	85.4	7.3	7.3	33.329	p < 0.001	0.060
	30代 (n = 206)	79.6	10.2	10.2			
	40代 (n = 757)	81.8	11.2	7.0			
	50代 (n = 1,666)	79.8	11.6	8.6			
	60代 (n = 1,494)	77.7	14.6	7.7			
	70代以上 (n = 392)	70.2	17.6	12.2			
東京2020大会に関わることが できた	10, 20代 (n = 96)	95.8	2.1	2.1	40.132	p < 0.001	0.066
	30代 (n = 206)	94.2	1.9	3.9			
	40代 (n = 757)	94.7	2.5	2.8			
	50代 (n = 1,666)	93.0	3.4	3.6			
	60代 (n = 1,494)	93.2	3.3	3.5			
	70代以上 (n = 392)	85.7	8.2	6.1			
一流の選手に会えた	10, 20代 (n = 96)	68.8	13.5	17.7	157.583	p < 0.001	0.131
	30代 (n = 206)	66.5	11.2	22.3			
	40代 (n = 757)	58.5	9.6	31.8			
	50代 (n = 1,666)	48.1	12.1	39.9			
	60代 (n = 1,494)	39.6	13.7	46.7			
	70代以上 (n = 392)	34.2	13.3	52.6			
東京2020大会の公式ボラン ティアユニフォームなど、 公式グッズがもらえた	10, 20代 (n = 96)	91.7	7.3	1.0	38.761	p < 0.001	0.065
	30代 (n = 206)	91.3	6.3	2.4			
	40代 (n = 757)	87.2	8.7	4.1			
	50代 (n = 1,666)	81.8	11.8	6.5			
	60代 (n = 1,494)	81.6	11.2	7.2			
	70代以上 (n = 392)	78.1	14.8	7.1			
障害のある人へのサポート 方法やコミュニケーション スキルが身についた	10, 20代 (n = 96)	49.0	26.0	25.0	27.384	p < 0.01	0.054
	30代 (n = 206)	40.8	21.4	37.9			
	40代 (n = 757)	38.6	34.3	27.1			
	50代 (n = 1,666)	41.1	28.9	30.0			
	60代 (n = 1,494)	39.4	32.7	28.0			
	70代以上 (n = 392)	35.7	33.7	30.6			
人の役に立ったと感じられ た	10, 20代 (n = 96)	78.1	10.4	11.5	23.423	p < 0.01	0.050
	30代 (n = 206)	72.3	15.5	12.1			
	40代 (n = 757)	69.6	20.3	10.0			
	50代 (n = 1,666)	67.2	21.5	11.3			
	60代 (n = 1,494)	65.5	23.4	11.1			
	70代以上 (n = 392)	61.2	26.5	12.2			
自分の視野を広げることが できた	10, 20代 (n = 96)	90.6	3.1	6.3	72.165	p < 0.001	0.088
	30代 (n = 206)	86.4	6.8	6.8			
	40代 (n = 757)	86.5	8.3	5.2			
	50代 (n = 1,666)	83.4	10.4	6.2			
	60代 (n = 1,494)	78.9	13.6	7.5			
	70代以上 (n = 392)	69.6	19.1	11.2			

東京2020大会を支えたボランティアに関する研究 その1  
—大会ボランティアの成果と満足度に着目して—

項目	年代	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
自分の日常生活に変化をもたらすことができた	10, 20代 (n = 96)	84.4	8.3	7.3	94.538	p < 0.001	0.101
	30代 (n = 206)	77.7	14.6	7.8			
	40代 (n = 757)	75.8	15.7	8.5			
	50代 (n = 1,666)	74.8	16.1	9.0			
	60代 (n = 1,494)	69.2	20.1	10.6			
	70代以上 (n = 392)	53.6	30.6	15.8			
キャリアにつながる経験ができた	10, 20代 (n = 96)	67.7	16.7	15.6	104.897	p < 0.001	0.107
	30代 (n = 206)	54.9	18.4	26.7			
	40代 (n = 757)	46.0	28.9	25.1			
	50代 (n = 1,666)	43.3	31.2	25.6			
	60代 (n = 1,494)	36.3	38.0	25.6			
	70代以上 (n = 392)	29.6	41.6	28.8			
語学力を生かすことができた	10, 20代 (n = 96)	52.1	18.8	29.2	92.967	p < 0.001	0.100
	30代 (n = 206)	52.9	17.0	30.1			
	40代 (n = 757)	42.7	24.0	33.3			
	50代 (n = 1,666)	36.6	24.7	38.7			
	60代 (n = 1,494)	30.5	30.5	39.1			
	70代以上 (n = 392)	26.8	28.1	45.2			
語学力以外のスキルや特技を生かすことができた	10, 20代 (n = 96)	55.2	20.8	24.0	83.694	p < 0.001	0.095
	30代 (n = 206)	46.1	23.3	30.6			
	40代 (n = 757)	40.2	30.6	29.2			
	50代 (n = 1,666)	36.1	31.3	32.7			
	60代 (n = 1,494)	28.9	34.5	36.6			
	70代以上 (n = 392)	24.7	34.4	40.8			
興味のあるスポーツに関わることができた	10, 20代 (n = 96)	52.1	17.7	30.2	39.682	p < 0.001	0.066
	30代 (n = 206)	42.7	24.3	33.0			
	40代 (n = 757)	44.3	22.5	33.3			
	50代 (n = 1,666)	41.0	21.7	37.3			
	60代 (n = 1,494)	34.1	26.0	40.0			
	70代以上 (n = 392)	35.7	24.0	40.3			
人と交流することができた	10, 20代 (n = 96)	92.7	1.0	6.3	66.617	p < 0.001	0.085
	30代 (n = 206)	87.4	7.3	5.3			
	40代 (n = 757)	84.5	7.8	7.7			
	50代 (n = 1,666)	83.8	8.6	7.6			
	60代 (n = 1,494)	78.4	12.0	9.6			
	70代以上 (n = 392)	70.7	16.8	12.5			
新たな友人を作ることができた	10, 20代 (n = 96)	71.9	14.6	13.5	115.224	p < 0.001	0.112
	30代 (n = 206)	65.5	16.5	18.0			
	40代 (n = 757)	61.7	17.7	20.6			
	50代 (n = 1,666)	61.8	19.2	19.0			
	60代 (n = 1,494)	49.5	25.6	25.0			
	70代以上 (n = 392)	41.3	32.4	26.3			

項目	年代	あてはまる	どちらとも いえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
やりがいのあることができた	10, 20代 (n = 96)	84.4	3.1	12.5	86.259	p < 0.001	0.097
	30代 (n = 206)	76.7	9.7	13.6			
	40代 (n = 757)	70.4	15.2	14.4			
	50代 (n = 1,666)	67.5	17.0	15.5			
	60代 (n = 1,494)	64.5	22.0	13.6			
70代以上 (n = 392)	52.8	28.6	18.6				

・パラ大会ボラ

性別にクロス集計および $\chi^2$ 検定を行った結果、15項目中7項目において有意な差が認められた。パラ大会ボラでは「自分の日常生活に変化をもたらすことができた」「人と交流することができた」「新たな友人を作ることができた」という3つの項目について特に、女性の「あてはまる」と回答した割合が高かった(表5)。

次に、年代別にクロス集計および $\chi^2$ 検定を行った結果、15項目中10項目において有意な差が認められた。「一流の選手に会えた」「自分の日常生活に変化をもたらすことができた」「キャリアにつながる経験ができた」「語学力を生かすことができた」「語学力以外のスキルや特技を生かすことができた」「新たな友人を作ることができた」という6つの項目について、年代が低いほどあてはまる割合が高い、あるいは、年代が高いほどあてはまる割合が低い傾向があった。

また、「自分の視野を広げることができた」について、「あてはまる」への回答が全年代で高い割合を占めた。

これらの結果は、オリ大会ボラと比較すると、パラ大会ボラの特徴的な結果だったと推察する(表6)。

表5 パラ大会ボラにおける活動から得られたもの(性別)

項目	性別	あてはまる	どちらとも いえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
東京2020大会の成功の一助になることができた	男性 (n = 510)	82.2	11.4	6.5	1.764	0.414	0.034
	女性 (n = 990)	79.5	12.4	8.1			
東京2020大会に関わる事ができた	男性 (n = 510)	93.5	2.9	3.5	0.699	0.705	0.022
	女性 (n = 990)	94.5	2.6	2.8			
一流の選手に会えた	男性 (n = 510)	43.1	12.9	43.9	0.461	p < 0.01	0.018
	女性 (n = 990)	52.3	12.3	35.4			
東京2020大会の公式ボランティアユニフォームなど、公式グッズがもたらされた	男性 (n = 510)	82.7	11.8	5.5	2.990	0.224	0.045
	女性 (n = 990)	84.9	9.0	6.1			
障害のある人へのサポート方法やコミュニケーションスキルが身についた	男性 (n = 510)	59.2	24.1	16.7	0.461	0.794	0.018
	女性 (n = 990)	60.5	24.1	15.4			

東京2020大会を支えたボランティアに関する研究 その1  
—大会ボランティアの成果と満足度に着目して—

項目	性別	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
人の役に立ったと感じられた	男性 (n = 510)	74.5	16.1	9.4	5.821	0.054	0.062
	女性 (n = 990)	68.6	20.4	11.0			
自分の視野を広げることができた	男性 (n = 510)	85.1	9.8	5.1	6.629	p < 0.05	0.066
	女性 (n = 990)	89.6	6.6	3.8			
自分の日常生活に変化をもたらすことができた	男性 (n = 510)	70.2	19.6	10.2	17.013	p < 0.001	0.106
	女性 (n = 990)	79.5	12.5	8.0			
キャリアにつながる経験ができた	男性 (n = 510)	47.1	29.2	23.7	8.200	p < 0.05	0.074
	女性 (n = 990)	39.6	31.7	28.7			
語学力を生かすことができた	男性 (n = 510)	27.5	25.5	47.1	9.763	p < 0.01	0.081
	女性 (n = 990)	35.4	21.8	42.8			
語学力以外のスキルや特技を生かすことができた	男性 (n = 510)	34.7	30.2	35.1	4.789	0.091	0.057
	女性 (n = 990)	30.2	29.3	40.5			
興味のあるスポーツに関わることができた	男性 (n = 510)	44.1	20.8	35.1	2.205	0.332	0.038
	女性 (n = 990)	43.6	23.9	32.4			
人と交流することができた	男性 (n = 510)	78.0	11.8	10.2	23.980	p < 0.001	0.126
	女性 (n = 990)	87.7	7.0	5.4			
新たな友人を作ることができた	男性 (n = 510)	44.9	27.1	28.0	38.357	p < 0.001	0.160
	女性 (n = 990)	61.4	20.5	18.1			
やりがいのあることができた	男性 (n = 510)	70.8	16.3	12.9	0.253	0.881	0.013
	女性 (n = 990)	71.2	15.4	13.4			

表6 パラ大会ボラにおける活動から得られたもの（年代別）

項目	年代	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
東京2020大会の成功の一助になることができた	10, 20代 (n = 84)	86.9	7.1	6.0	6.415	0.779	0.046
	30代 (n = 124)	79.8	12.9	7.3			
	40代 (n = 297)	79.5	12.8	7.7			
	50代 (n = 573)	81.9	11.2	7.0			
	60代 (n = 353)	77.9	13.6	8.5			
東京2020大会に関わることができた	10, 20代 (n = 84)	95.2	3.6	1.2	21.935	0.015	0.085
	30代 (n = 124)	94.4	5.6	0.0			
	40代 (n = 297)	96.6	2.0	1.3			
	50代 (n = 573)	94.6	2.1	3.3			
	60代 (n = 353)	91.2	3.7	5.1			
一流の選手に会えた	10, 20代 (n = 84)	70.2	9.5	20.2	53.917	p < 0.001	0.134
	30代 (n = 124)	61.3	8.9	29.8			
	40代 (n = 297)	56.2	10.8	33.0			
	50代 (n = 573)	48.5	12.9	38.6			
	60代 (n = 353)	38.2	15.9	45.9			
	70代以上 (n = 79)	34.2	12.7	53.2			

項目	年代	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
東京2020大会の公式ボランティアユニフォームなど、公式グッズがもらえた	10, 20代 (n = 84)	89.3	8.3	2.4	36.171	p < 0.001	0.109
	30代 (n = 124)	92.7	4.8	2.4			
	40代 (n = 297)	88.6	7.4	4.0			
	50代 (n = 573)	84.1	9.6	6.3			
	60代 (n = 353)	75.4	14.7	9.9			
	70代以上 (n = 79)	86.1	11.4	2.5			
障害のある人へのサポート方法やコミュニケーションスキルが身についた	10, 20代 (n = 84)	67.9	21.4	10.7	17.087	0.072	0.075
	30代 (n = 124)	52.4	25.8	21.8			
	40代 (n = 297)	66.0	18.2	15.8			
	50代 (n = 573)	59.9	25.1	15.0			
	60代 (n = 353)	55.5	27.8	16.7			
	70代以上 (n = 79)	62.0	25.3	12.7			
人の役に立ったと感じられた	10, 20代 (n = 84)	79.8	14.3	6.0	8.891	0.542	0.054
	30代 (n = 124)	71.0	16.1	12.9			
	40代 (n = 297)	72.4	18.5	9.1			
	50代 (n = 573)	69.6	19.4	11.0			
	60代 (n = 353)	67.7	20.7	11.6			
	70代以上 (n = 79)	68.4	24.1	7.6			
自分の視野を広げることができた	10, 20代 (n = 84)	92.9	6.0	1.2	13.117	0.217	0.066
	30代 (n = 124)	86.3	10.5	3.2			
	40代 (n = 297)	91.6	5.7	2.7			
	50代 (n = 573)	88.0	7.3	4.7			
	60代 (n = 353)	84.7	9.1	6.2			
	70代以上 (n = 79)	86.1	10.1	3.8			
自分の日常生活に変化をもたらすことができた	10, 20代 (n = 84)	79.8	10.7	9.5	37.657	p < 0.001	0.112
	30代 (n = 124)	79.0	12.1	8.9			
	40代 (n = 297)	81.8	10.8	7.4			
	50代 (n = 573)	77.7	13.3	9.1			
	60代 (n = 353)	71.1	19.5	9.3			
	70代以上 (n = 79)	58.2	34.2	7.6			
キャリアにつながる経験ができた	10, 20代 (n = 84)	69.0	19.0	11.9	34.268	p < 0.001	0.107
	30代 (n = 124)	44.4	27.4	28.2			
	40代 (n = 297)	41.1	30.0	29.0			
	50代 (n = 573)	42.2	29.8	27.9			
	60代 (n = 353)	37.1	35.7	27.2			
	70代以上 (n = 79)	34.2	38.0	27.8			
語学力を生かすことができた	10, 20代 (n = 84)	42.9	20.2	36.9	35.178	p < 0.001	0.108
	30代 (n = 124)	44.4	14.5	41.1			
	40代 (n = 297)	36.0	22.9	41.1			
	50代 (n = 573)	33.2	21.3	45.5			
	60代 (n = 353)	23.2	30.3	46.5			
	70代以上 (n = 79)	27.8	22.8	49.4			

東京2020大会を支えたボランティアに関する研究 その1  
—大会ボランティアの成果と満足度に着目して—

項目	年代	あてはまる	どちらとも いえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
語学力以外のスキルや特技を生かすことができた	10, 20代 (n = 84)	44.0	23.8	32.1	32.682	p < 0.001	0.104
	30代 (n = 124)	42.7	27.4	29.8			
	40代 (n = 297)	34.3	30.3	35.4			
	50代 (n = 573)	31.4	30.0	38.6			
	60代 (n = 353)	25.8	31.4	42.8			
	70代以上 (n = 79)	16.5	27.8	55.7			
興味のあるスポーツに関わることができた	10, 20代 (n = 84)	58.3	20.2	21.4	21.687	p < 0.05	0.085
	30代 (n = 124)	46.0	21.8	32.3			
	40代 (n = 297)	45.5	23.9	30.6			
	50代 (n = 573)	45.7	22.0	32.3			
	60代 (n = 353)	38.0	23.2	38.8			
	70代以上 (n = 79)	30.4	27.8	41.8			
人と交流することができた	10, 20代 (n = 84)	90.5	7.1	2.4	24.279	p < 0.01	0.090
	30代 (n = 124)	85.5	9.7	4.8			
	40代 (n = 297)	86.5	8.1	5.4			
	50代 (n = 573)	85.2	6.6	8.2			
	60代 (n = 353)	81.9	11.3	6.8			
	70代以上 (n = 79)	70.9	13.9	15.2			
新たな友人を作ることができた	10, 20代 (n = 84)	69.0	16.7	14.3	41.330	p < 0.001	0.117
	30代 (n = 124)	66.9	16.9	16.1			
	40代 (n = 297)	57.6	19.5	22.9			
	50代 (n = 573)	58.5	20.1	21.5			
	60代 (n = 353)	46.5	31.7	21.8			
	70代以上 (n = 79)	41.8	27.8	30.4			
やりがいのあることができた	10, 20代 (n = 84)	86.9	4.8	8.3	18.728	p < 0.05	0.079
	30代 (n = 124)	69.4	17.7	12.9			
	40代 (n = 297)	72.7	16.2	11.1			
	50代 (n = 573)	70.9	14.8	14.3			
	60代 (n = 353)	68.3	17.8	13.9			
	70代以上 (n = 79)	60.8	21.5	17.7			

・オリパラ両大会ボラ

性別にクロス集計および $\chi^2$ 検定を行った結果、15項目中9項目において有意な差が認められた。オリパラ両大会ボラでは「一流の選手に会えた」「自分の視野を広げることができた」「自分の日常生活に変化をもたらすことができた」「人と交流することができた」「新たな友人を作ることができた」という5つの項目について、特に、女性の「あてはまる」と回答した割合が高かった(表7)。

次に、年代別にクロス集計および $\chi^2$ 検定を行った結果、全ての項目において有意な差が認められた。「一流の選手に会えた」「自分の日常生活に変化をもたらすことができた」「キャリアにつながる経験ができた」「語学力を生かすことができた」「語学力以外のスキルや特技を生かすことができた」「新たな友人を作ることができた」という6つの項目について、特に、年代が低いほどあてはまる割合が高かった。

また、パラ大会ボラ同様、「自分の視野を広げることができた」について、「あてはまる」への回答が全年代で高い割合を占めた。

「障害のある人へのサポート方法やコミュニケーションスキルが身についた」については、「あてはまる」への回答が全年代で6割程度であった。

さらに、「人と交流することができた」について、「あてはまる」への回答が全年代で8割を超えた。これらは、いずれもオリ大会ボラのみ・パラ大会ボラのみよりも高い傾向にあった（表8）。

オリパラ両大会へのボランティア参加は、パラ大会ボラの特徴と似た傾向にあり、両大会にまたがり長期に活動を行ったことで、活動を通じた交流が盛んであったことが推察される。

表7 オリパラ両大会ボラにおける活動から得られたもの（性別）

項目	性別	あてはまる	どちらとも いえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
東京2020大会の成功の一助になることができた	男性 (n = 1,230)	85.8	9.9	4.3	0.098	0.952	0.006
	女性 (n = 1,604)	85.8	9.7	4.5			
東京2020大会に関わることができた	男性 (n = 1,230)	95.1	2.7	2.2	6.759	p < 0.05	0.049
	女性 (n = 1,604)	97.0	1.6	1.4			
一流の選手に会えた	男性 (n = 1,230)	45.4	16.4	38.1	31.699	p < 0.001	0.106
	女性 (n = 1,604)	56.1	13.1	30.8			
東京2020大会の公式ボランティアユニフォームなど、公式グッズがもたらされた	男性 (n = 1,230)	76.9	14.8	8.3	22.042	p < 0.001	0.088
	女性 (n = 1,604)	83.8	11.0	5.2			
障害のある人へのサポート方法やコミュニケーションスキルが身についた	男性 (n = 1,230)	57.4	24.6	18.0	6.514	p < 0.05	0.048
	女性 (n = 1,604)	61.8	21.0	17.2			
人の役に立ったと感じられた	男性 (n = 1,230)	76.1	16.9	7.0	1.150	0.563	0.020
	女性 (n = 1,604)	75.6	16.4	8.0			
自分の視野を広げることができた	男性 (n = 1,230)	82.3	12.0	5.7	45.862	p < 0.001	0.127
	女性 (n = 1,604)	90.8	5.9	3.2			
自分の日常生活に変化をもたらすことができた	男性 (n = 1,230)	71.3	19.4	9.3	58.782	p < 0.001	0.144
	女性 (n = 1,604)	83.3	11.0	5.7			
キャリアにつながる経験ができた	男性 (n = 1,230)	43.2	33.1	23.7	5.203	0.074	0.043
	女性 (n = 1,604)	39.8	32.9	27.2			
語学力を生かすことができた	男性 (n = 1,230)	38.0	26.3	35.7	11.283	p < 0.01	0.063
	女性 (n = 1,604)	43.3	21.6	35.1			
語学力以外のスキルや特技を生かすことができた	男性 (n = 1,230)	40.2	30.7	29.1	1.929	0.381	0.026
	女性 (n = 1,604)	40.3	28.6	31.0			
興味のあるスポーツに関わることができた	男性 (n = 1,230)	42.5	23.1	34.4	0.975	0.614	0.019
	女性 (n = 1,604)	41.6	22.3	36.2			
人と交流することができた	男性 (n = 1,230)	81.2	10.3	8.5	48.567	p < 0.001	0.131
	女性 (n = 1,604)	90.3	5.5	4.2			

東京2020大会を支えたボランティアに関する研究 その1  
—大会ボランティアの成果と満足度に着目して—

項目	性別	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
新たな友人を作ることができた	男性 (n = 1,230)	58.4	20.7	21.0	66.158	p < 0.001	0.153
	女性 (n = 1,604)	72.6	15.2	12.2			
やりがいのあることができた	男性 (n = 1,230)	74.1	16.1	9.8	4.337	0.114	0.039
	女性 (n = 1,604)	77.4	13.9	8.7			

表8 オリパラ両大会ボラにおける活動から得られたもの（年代別）

項目	年代	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
東京2020大会の成功の一助になることができた	10, 20代 (n = 136)	91.9	5.1	2.9	28.045	p < 0.01	0.070
	30代 (n = 178)	93.3	4.5	2.2			
	40代 (n = 481)	85.9	10.4	3.7			
	50代 (n = 935)	87.5	8.6	4.0			
	60代 (n = 883)	82.8	11.8	5.4			
	70代以上 (n = 241)	80.5	12.4	7.1			
東京2020大会に関わることができた	10, 20代 (n = 136)	98.5	0.0	1.5	20.659	p < 0.05	0.060
	30代 (n = 178)	98.9	1.1	0.0			
	40代 (n = 481)	96.9	1.2	1.9			
	50代 (n = 935)	96.7	1.8	1.5			
	60代 (n = 883)	95.2	2.6	2.2			
	70代以上 (n = 241)	92.5	4.6	2.9			
一流の選手に会えた	10, 20代 (n = 136)	79.4	8.8	11.8	163.875	p < 0.001	0.169
	30代 (n = 178)	68.5	10.1	21.3			
	40代 (n = 481)	60.5	14.8	24.7			
	50代 (n = 935)	54.3	11.8	33.9			
	60代 (n = 883)	38.7	17.1	44.2			
	70代以上 (n = 241)	40.7	21.6	37.8			
東京2020大会の公式ボランティアユニフォームなど、公式グッズがもらえた	10, 20代 (n = 136)	91.9	3.7	4.4	44.848	p < 0.001	0.089
	30代 (n = 178)	89.3	7.3	3.4			
	40代 (n = 481)	83.6	11.6	4.8			
	50代 (n = 935)	81.7	12.3	6.0			
	60代 (n = 883)	75.0	15.6	9.4			
	70代以上 (n = 241)	78.8	14.1	7.1			
障害のある人へのサポート方法やコミュニケーションスキルが身についた	10, 20代 (n = 136)	69.1	16.9	14.0	21.678	p < 0.05	0.062
	30代 (n = 178)	61.8	20.2	18.0			
	40代 (n = 481)	62.2	19.8	18.1			
	50代 (n = 935)	61.0	22.9	16.1			
	60代 (n = 883)	57.0	23.0	20.0			
	70代以上 (n = 241)	54.8	30.3	14.9			
人の役に立ったと感じられた	10, 20代 (n = 136)	87.5	5.1	7.4	28.769	p < 0.01	0.071
	30代 (n = 178)	82.6	12.4	5.1			
	40代 (n = 481)	73.6	18.9	7.5			
	50代 (n = 935)	76.6	16.4	7.1			
	60代 (n = 883)	73.3	18.9	7.8			
	70代以上 (n = 241)	74.7	14.1	11.2			

項目	年代	あてはまる	どちらとも いえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P 値	Cramer's V
自分の視野を広げることができた	10, 20代 (n = 136)	92.6	4.4	2.9	38.895	p < 0.001	0.083
	30代 (n = 178)	94.9	3.9	1.1			
	40代 (n = 481)	88.4	8.3	3.3			
	50代 (n = 935)	89.1	7.2	3.7			
	60代 (n = 883)	83.6	10.5	5.9			
	70代以上 (n = 241)	80.1	12.9	7.1			
自分の日常生活に変化をもたらすことができた	10, 20代 (n = 136)	81.6	8.8	9.6	70.009	p < 0.001	0.111
	30代 (n = 178)	86.5	7.9	5.6			
	40代 (n = 481)	81.9	12.3	5.8			
	50代 (n = 935)	82.5	10.6	7.0			
	60代 (n = 883)	71.5	19.9	8.6			
	70代以上 (n = 241)	68.0	23.7	8.3			
キャリアにつながる経験ができた	10, 20代 (n = 136)	69.9	16.2	14.0	97.106	p < 0.001	0.130
	30代 (n = 178)	54.5	26.4	19.1			
	40代 (n = 481)	46.4	30.4	23.3			
	50代 (n = 935)	40.0	35.5	24.5			
	60代 (n = 883)	32.7	35.3	31.9			
	70代以上 (n = 241)	40.2	34.0	25.7			
語学力を生かすことができた	10, 20代 (n = 136)	63.2	11.0	25.7	79.291	p < 0.001	0.118
	30代 (n = 178)	60.7	13.5	25.8			
	40代 (n = 481)	42.0	24.9	33.1			
	50代 (n = 935)	41.0	23.6	35.4			
	60代 (n = 883)	34.9	25.1	40.0			
	70代以上 (n = 241)	34.4	29.0	36.5			
語学力以外のスキルや特技を生かすことができた	10, 20代 (n = 136)	58.8	19.9	21.3	72.939	p < 0.001	0.113
	30代 (n = 178)	53.9	25.3	20.8			
	40代 (n = 481)	46.6	25.6	27.9			
	50代 (n = 935)	41.1	29.6	29.3			
	60代 (n = 883)	33.0	32.3	34.8			
	70代以上 (n = 241)	30.3	35.7	34.0			
興味のあるスポーツに関わることができた	10, 20代 (n = 136)	55.1	19.9	25.0	56.130	p < 0.001	0.099
	30代 (n = 178)	56.2	21.3	22.5			
	40代 (n = 481)	45.3	21.6	33.1			
	50代 (n = 935)	43.3	22.6	34.1			
	60代 (n = 883)	34.8	23.0	42.2			
	70代以上 (n = 241)	37.8	27.0	35.3			
人と交流することができた	10, 20代 (n = 136)	93.4	2.9	3.7	38.152	p < 0.001	0.082
	30代 (n = 178)	92.1	4.5	3.4			
	40代 (n = 481)	89.8	6.4	3.7			
	50代 (n = 935)	87.8	6.7	5.5			
	60代 (n = 883)	81.8	9.6	8.6			
	70代以上 (n = 241)	82.6	10.4	7.1			
新たな友人を作ることができた	10, 20代 (n = 136)	80.1	11.8	8.1	73.924	p < 0.001	0.114
	30代 (n = 178)	78.1	11.8	10.1			
	40代 (n = 481)	69.0	15.2	15.8			
	50代 (n = 935)	71.2	15.8	12.9			
	60代 (n = 883)	59.2	20.8	19.9			
	70代以上 (n = 241)	53.5	24.5	22.0			

項目	年代	あてはまる	どちらとも いえない	あてはまらない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
やりがいのあることができた	10, 20代 (n = 136)	90.4	2.9	6.6	54.825	p < 0.001	0.098
	30代 (n = 178)	86.0	10.1	3.9			
	40代 (n = 481)	79.0	12.3	8.7			
	50代 (n = 935)	76.8	14.7	8.6			
	60代 (n = 883)	71.9	17.4	10.6			
	70代以上 (n = 241)	65.1	22.0	12.9			

### 3-3 大会ボランティア活動の満足度

大会ボランティア活動の満足度について、1. 非常に満足した、2. やや満足した、3. どちらともいえない、4. あまり満足しなかった、5. 全く満足しなかった、の5段階について、大会種別にクロス集計および $\chi^2$ 検定を行った。

#### (1) 大会種別における特徴

大会ボランティア活動の満足度について、大会種別にクロス集計 $\chi^2$ 検定を行った結果、満足（非常に・やや合計）が約8割を占め、オリのみ・パラのみ・両方の順で高かった（表9）。

表9 大会ボランティア活動の満足度（大会種別）

大会種別	非常に満足した	やや満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	全く満足しなかった	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
オリンピック (n = 4,611)	35.1	39.2	9.1	11.6	4.9	58.426	p < 0.001	0.057
パラリンピック (n = 1,510)	39.9	38.8	7.9	9.7	3.6			
オリパラ両方 (n = 2,854)	40.8	38.8	9.1	8.7	2.7			

ラグビーワールドカップ2019でボランティアとして参加した者の満足度は「非常に満足した」「やや満足した」を合わせると「満足した」が9割を占めていた。東京2020大会のボランティアの満足度はどの大会種においてもその割合よりも低く、コロナ禍での無観客開催や急な配置変更、それに伴う活動期間の短縮等が要因として推察される。

#### (2) 性別・年代における特徴

##### ・オリ大会ボラ

性別、年代別にクロス集計および $\chi^2$ 検定を行った結果、ともに有意な差が認められた。性別にみると、オリ大会ボラでは満足（非常に・やや合計）が約8割を占めた（表10）。年代別では、年代が低いほど、満足度が高い傾向であった（表11）。

表10 オリ大会ボラにおける満足度（性別）

性別	非常に満足した	やや満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	全く満足しなかった	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
男性 (n = 1,969)	37.0	37.7	7.9	12.0	5.4	12.059	p < 0.05	0.051
女性 (n = 2,621)	33.8	40.3	9.9	11.4	4.6			

表11 オリ大会ボラにおける満足度（年代別）

年代	非常に満足した	やや満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	全く満足しなかった	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
10. 20代 (n = 96)	44.8	34.4	6.3	11.5	3.1	80.153	p < 0.001	0.066
30代 (n = 206)	39.3	39.3	8.3	8.7	4.4			
40代 (n = 757)	40.6	35.4	10.3	9.4	4.4			
50代 (n = 1,666)	37.7	38.1	8.3	10.6	5.4			
60代 (n = 1,494)	29.9	43.4	10.0	12.7	4.1			
70代以上 (n = 392)	29.1	37.0	7.7	18.1	8.2			

・パラ大会ボラ

性別、年代別にクロス集計および $\chi^2$ 検定を行った結果、年代別において有意な差が認められた。

性別にみると、男女ともに有意差は認められなかった（表12）。

年代別では、年代が低いほど、満足度がやや高い傾向であった（表13）。

表12 パラ大会ボラにおける満足度（性別）

性別	非常に満足した	やや満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	全く満足しなかった	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
男性 (n = 510)	41.8	37.6	5.5	11.2	3.9	8.561	0.073	0.076
女性 (n = 990)	39.2	39.3	9.2	9.1	3.2			

表13 パラ大会ボラにおける満足度（年代別）

年代	非常に満足した	やや満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	全く満足しなかった	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
10. 20代 (n = 84)	61.9	31.0	1.2	3.6	2.4	45.602	p < 0.01	0.087
30代 (n = 124)	45.2	37.9	4.8	10.5	1.6			
40代 (n = 297)	41.4	40.4	6.7	8.8	2.7			
50代 (n = 573)	39.3	38.7	8.7	9.1	4.2			
60代 (n = 353)	35.7	39.4	8.2	12.7	4.0			
70代以上 (n = 79)	26.6	40.5	17.7	10.1	5.1			

・オリパラ両大会ボラ

性別、年代別にクロス集計および $\chi^2$ 検定を行った結果、有意な差が認められた。

性別にみると、満足（非常に・やや合計）が約8割を占めた（表14）。

年代別では、年代が低いほど、満足度がやや高い傾向であった（表15）。

表14 オリパラ両大会ボラにおける満足度（性別）

性別	非常に満足した	やや満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	全く満足しなかった	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
男性（n = 1,230）	40.7	38.1	8.0	9.6	3.7	14.256	p < 0.01	0.071
女性（n = 1,604）	41.0	39.4	9.9	8.0	1.8			

表15 オリパラ両大会ボラにおける満足度（年代別）

年代	非常に満足した	やや満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	全く満足しなかった	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
10. 20代（n = 136）	59.6	25.7	7.4	3.7	3.7	79.900	p < 0.001	0.084
30代（n = 178）	51.7	35.4	7.9	3.4	1.7			
40代（n = 481）	41.0	40.5	10.8	5.4	2.3			
50代（n = 935）	41.9	40.3	7.6	8.6	1.6			
60代（n = 883）	36.0	39.2	10.4	11.0	3.4			
70代以上（n = 241）	35.3	37.3	8.3	13.7	5.4			

ラグビーワールドカップ2019にボランティアとして参加した者においても、性別では大きな差はないものの、年代別に見ると年代が低いほど、満足度がやや高い傾向であり、東京2020大会においても同様の結果であった。

### （3）活動日数における特徴

大会ボランティア活動の満足度について、活動日数別にクロス集計および $\chi^2$ 検定を行った結果、活動日数が「10日～15日」「16日～20日」について満足度が高く、「1日～9日」について満足度が低い傾向にあった（表16）。これにより、ある一定期間以上ボランティア活動を行うことにより満足度が高まることが推測される（注8）。

表16 活動日数別における活動の満足度

活動日数	非常に満足した	やや満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	全く満足しなかった	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
1日～9日（n = 6,028）	33.4	38.9	10.0	12.5	5.3	274.421	p < 0.001	0.101
10日～15日（n = 2,331）	46.8	39.1	6.5	6.1	1.5			
16日～20日（n = 421）	47.7	39.4	6.7	5.2	1.0			
21日以上（n = 195）	42.6	40.5	9.2	5.6	2.1			

### 3-4 ボランティア活動の継続意向

今後のボランティア活動の継続意向について、1. ぜひ行いたい、2. できれば行いたい、3. あまり行いたくない、4. まったく行いたくない、5. わからない、の5段

階について、性別、年代別にクロス集計および $\chi^2$ 検定を行った。

(1) 性別・年代における特徴

性別、年代別にクロス集計および $\chi^2$ 検定を行った結果、ともに有意な差が認められた。

性別にみると、行いたい（ぜひ・できれば）合計が約9割以上を占めた（表17）。

年代別では、年代が低いほど「ぜひ行いたい」が高い傾向であった（表18）。

表17 今後のボランティア活動継続意向（性別）

性別	ぜひ 行いたい	できれば 行いたい	あまり 行いたくない	まったく 行いたくない	わからない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
男性 (n = 3,709)	54.8	38.7	1.6	0.7	4.2	12.820	p < 0.05	0.038
女性 (n = 5,215)	54.5	40.2	1.1	0.3	3.9			

表18 今後のボランティア活動継続意向（年代別）

年代	ぜひ 行いたい	できれば 行いたい	あまり 行いたくない	まったく 行いたくない	わからない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
10, 20代 (n = 316)	59.8	33.5	2.2	1.9	2.5	69.237	p < 0.001	0.044
30代 (n = 508)	57.1	36.8	1.2	0.2	4.7			
40代 (n = 1,535)	56.4	38.5	1.4	0.1	3.6			
50代 (n = 3,174)	56.4	38.5	0.9	0.5	3.7			
60代 (n = 2,730)	51.9	42.2	1.3	0.4	4.1			
70代以上 (n = 712)	49.3	41.7	2.8	0.8	5.3			

ラグビーワールドカップ2019にボランティアとして参加した者においても、性別では大きな差はないものの、年代別に見ると60代、70代以上では「ぜひ行いたい」が他の年代よりも低い傾向にあったが、それは東京2020大会においても同様の結果であった。

(2) ボランティア経験の有無における特徴

今後のボランティア活動の継続意向について、ボランティア経験の有無別にクロス集計 $\chi^2$ 検定を行った。その結果、ボランティア経験について「現在も活動している」と回答した者が「ぜひ行いたい」と回答する割合が高く、反対に「今まで活動したことがない」と回答した者が「ぜひ行いたい」と回答する割合は低い傾向にあった（表15）。これにより、ボランティア経験が無い者よりも、ボランティア経験が有る者の方が、今後の積極的な活動意向があると推測される（注9）。

表19 ボランティア活動経験の有無における今後のボランティア活動の継続意向

ボランティア経験	ぜひ 行いたい	できれば 行いたい	あまり 行いたくない	まったく 行いたくない	わからない	$\chi^2$ 値	P値	Cramer's V
現在も活動している (n=2,843)	71.8	26.1	0.6	0.1	1.5	619.139	p < 0.001	0.186
現在は活動して いないが、過去活動 したことがある (n=3,647)	51.5	42.6	1.5	0.7	3.8			
今まで活動したこ とがない (n=2,485)	39.6	50.7	1.9	0.6	7.2			

## 4 おわりに

東京2020大会における大会ボランティアへのアンケート調査から、次のような結果が得られた。

東京2020大会へのボランティア参加の形態としては、オリンピック、パラリンピック、オリパラ両大会の3つがある。本稿では、それぞれの大会種毎に、活動を通して得られたことや感じたことについて分析を行った。その結果、オリンピックよりもパラリンピック、オリパラ両大会に参加したボランティアにおいて、「障害のある人へのサポート方法やコミュニケーションスキルが身についた」という項目に対し「あてはまる」と回答する割合が高い傾向にあった。言うまでもなく、これは大会特性を反映したものであり、パラリンピックを支えることで得られる要素が明らかになったと言える。ボランティア活動に対する満足度や今後の活動意向については、大会種の間には大きな差は認められなかった。性別の特徴としては、オリンピックでは「一流の選手に会えた」「自分の視野を広げることができた」、パラリンピック、オリパラ両大会では「自分の日常生活に変化をもたらすことができた」「人と交流することができた」「新たな友人を作ることができた」という項目において男性よりも女性の回答が多い傾向があった。全ての大会種において、女性の方が男性よりも、ボランティア活動の経験から多くのものを得たと感じている割合が高い傾向にあった。

年代別の特徴としては、オリンピックでは「一流の選手に会えた」「自分の日常生活に変化をもたらすことができた」「キャリアにつながる経験ができた」「語学力を生かすことができた」「新たな友人を作ることができた」という5つの項目において、パラリンピック、オリパラ両大会では上記5項目に「語学力以外のスキルや特技を生かすことができた」の1項目を加えた6項目において、主に30代以下の若い年代で「あてはまる」と回答する割合が高い傾向にあった。その一方、全ての大会種において、これらの項目では70代以上が「あてはまる」と回答する割合が低い傾向にあった。これらの結果は、

傾向としてはラグビーワールドカップ2019大会ボランティアと同じであるが、新たな友人の獲得やスキルを活かした活動という点は、東京2020大会ボランティアの方が顕著であった。

満足度については、性別や年代別では大きな差はみられないものの、若い世代にやや高い傾向があった。また、このような満足度の傾向は、ラグビーワールドカップ2019大会ボランティアと共通していた。

活動日数における特徴としては、「10日～15日」「16日～20日」について満足度が高く、反対に活動期間が短いと満足度がやや下がる傾向にあった。

今後のボランティア活動意向については、これまでのボランティア経験との連関があり、「現在も活動している」と回答した者については特に積極的な継続意向がある一方で、「今まで活動したことがない」と回答した者については積極的な継続意向があまりない傾向があった。

東京2020大会を支えた大会ボランティアに関するデータは少なく、本稿がそれを補う基礎的資料として一定程度意味はあると考えている。しかし、実際の大会ボランティア参加者の年代構成と調査対象者の年代構成の違いを鑑みると、今後も追跡的な調査を行いながら、質的な部分も含めて補完していくことが課題になる。また、具体的な活動内容を主軸とした分析や都市ボランティアを対象とした研究は、今後行う予定である。

こうした大規模スポーツイベントを支えたボランティアに関する基礎研究が、今後のボランティアマネジメントに何らかの形で寄与し、豊かなボランティア環境が形成されることを願っている。

## 謝辞

調査にご協力いただきました大会ボランティアの皆さま、調査票設計にご助言頂きました澁谷茂樹様（笹川スポーツ財団）、調査の実務を担当いただいた日本財団ボランティアサポートセンター（現：日本財団ボランティアセンター）の皆さま、統計処理にご助言頂きました水野陽介氏（文教大学生生活科学研究所）に感謝申し上げます。

## 注

- (1) 東京新聞には、「自分が感染して、周囲に広げる可能性もある。目立つユニホームを着て電車に乗れば、どう思われるか。石を投げられるんじゃないか」というボランティアのコメントが掲載された。東京新聞 web, 『「石投げられるかも…」五輪パラ組織委の『自宅からユニホーム着用』指示にボランティア困惑』, 2021年7月11日, <https://www.tokyo-np.co.jp/article/115857>, (2022年3月22日)。

- (2) 大会ボランティアの中でも、特に、案内、ヘルスケアの役割を務める予定だった者が、直前で他の役割に変更された。
- (3) ボラサボは、2017年6月に東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と日本財団が締結したボランティアの連携・協力に関する協定に基づき、当該協力に係る事業を実施する団体として設立された。当団体は現在、公益財団法人日本財団ボランティアセンターに統一され運営を行なっている。筆者は前団体、現団体の参与を務めている。
- (4) ボラサボからの研究委託に基づき、筆者が所属する文教大学と共同で調査・分析を実施したものである。2021年11月22日に開催した調査結果報告会では、その結果の一部をメディアに公開している。
- (5) 尚、本稿内容以外の分析については、2021年11月22日に単純集計を中心としたアンケート結果をプレスリリースにて発信している、  
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000054.000034736.html>, (2022年3月22日)。
- (6) 東京2020第47回理事会資料によれば、男性29,677人、女性41,289人(計70,970人)となっている。
- (7) 東京2020第47回理事会資料によれば、10代2,112人、20代17,354人、30代8,112人、40代11,972人、50代16,815人、60代11,640人、70代2,823人、80代139人、90代3人(計70,970人)となっている。
- (8) 活動日数別の満足度については、特にパラ大会ボラについて活動日数16日以上のサンプル数が非常に少なかったため、大会種別ではなく、統一して分析している。
- (9) ボランティア活動経験別の今後の活動意向については、今後のボランティア意向の「まったく行いたくない」のサンプル数が非常に少なかったため、大会種別ではなく、統一して分析している。

#### 参考文献

- 1 公益財団法人笹川スポーツ財団, 2020, 『ラグビーワールドカップ2019大会ボランティアに関する調査報告書』
- 2 特定非営利活動法人日本スポーツボランティアネットワーク, 2021, 『東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会日本スポーツボランティアネットワークボランティア活動報告会報告書』
- 3 日本財団ボランティアセンター監修, 2022, 『ボランティアたちの物語東京2020オリンピック・パラリンピックの記録』, 小峰書店

# Study of Volunteers Who Supported the Tokyo 2020 Games (Part 1): Achievements and Satisfaction of Games Volunteers

NINOMIYA Masaya

(Bunkyo University)

The objective of this study is to shed light on characteristics of the volunteers of the Games by taking a close look at the volunteers based on results obtained from questionnaire surveys before and after the Games. The questionnaire surveys, entitled “Tokyo 2020 Olympic Games: Post-Olympics Survey of Games Volunteers” and “Tokyo 2020 Olympic Games: Post-Paralympics Survey of Games Volunteers,” were conducted by the Nippon Foundation Volunteer Support Center.

Survey items included basic volunteer attributes (gender, age, place of residence, occupation, role, duration of volunteer activities, number of days of volunteer activities, time required to travel to volunteer venues, vaccination status, PCR test status and previous volunteer experience) . In addition, the surveys examined the volunteers’ level of satisfaction with volunteer activities, intentions to participate in future volunteer activities, what the volunteers gained and felt as a result of their participation in volunteer activities, volunteers’ evaluation of the volunteer program, evaluation of events held without spectators, and the treatment of volunteers.

Survey results indicated that the ratio of responses to the item “I acquired support methods and communication skills in relation to people with disabilities” tended to be higher for volunteers who participated in activities at the Paralympics or both the Olympics and Paralympics than those who participated in activities at the Olympics alone. No significant differences were observed among volunteers of the Olympics, Paralympics, or both Olympics and Paralympics in the level of satisfaction with volunteer activities and intentions to participate in future activities. In terms of gender characteristics, there was a tendency for more women than men to respond to the items “I was able to meet top athletes” and “I was able to broaden my

perspective” among volunteers of the Olympics, and "I was able to bring about changes in my daily life," "I was able to interact with people" and "I was able to make new friends” among volunteers of the Paralympics and both Olympics and Paralympics. Furthermore, across the Games, the ratio of volunteers who felt that they had gained a lot from their experience tended to be higher for women than for men.

A look at characteristics by age group indicated the ratio of responses to the five items "I was able to meet top athletes," "I was able to bring about a difference in my daily life," "I was able to gain experience that will lead to a career," "I was able to use my language skills" and "I was able to make new friends” among volunteers of the Olympics, and among volunteers of the Paralympics and both Olympics and Paralympics responses to the same five and an additional sixth item "I was able to use skills other than my language skills as well as other special skills”, tended to be higher among volunteers in their 30s or under. On the other hand, the ratio of responses of volunteers aged 70 and over tended to be low across all Games volunteer classifications.

In terms of the level of satisfaction, there was no significant difference by gender or age group, but the level of satisfaction among volunteers of the younger generation tended to be higher. In terms of the number of activity days, the level of satisfaction tended to be high for “10 to 15 days” and “16 to 20 days,” and with a shorter volunteer activity period, there was a tendency for the level of satisfaction to decrease slightly.

In regard to volunteers’ intentions to participate in future volunteer activities, the survey findings indicated a relationship with previous volunteer experience. While persons who answered that they are “currently active” in volunteer activities had particularly positive intentions to continue their activities, volunteers who answered that they had “never participated in volunteer activities until now” tended to have slightly less positive intentions to continue.